

#編集後記 ころころころ

もうすぐ9月ですが、猛暑の日はまだ続いています。

しかも晴れば「危険な暑さ」、雨が降れば「恐怖」を覚えるような豪雨。両極端ですよ。それも朝は晴れていたのに突然天気が変わることもあって困ってしまいます (+_+)

アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



「女ころころと秋の空」と言いますが、ころころ変わる昨今の夏の天気にもいえるのかもしれませんが。

この「女ころころと・・・」ですが、「男ころころと秋の空」という表現もあるようです。

というより、もともとは「男心と秋の空」だったそうなんです。

この「男心と秋の空」のことわざができたのは江戸時代。当時は既婚女性の姦通罪は重罪だった

一方、既婚男性の浮気には寛大だったので、移り気なのはもっぱら男性だったのでしょうね。

それが欧米の影響で徐々に女性が素直に意思表示ができるようになると恋愛の価値観も変わり、

逆に「女ころころと秋の空」という表現が定着していったのだそうです。

女ころころと秋の空だ！
男ころころと秋の空よ！



僕が高校生の頃、現代国語で学んだ夏目漱石の「ころころ」の授業で、恩師が教えてくれた

「ころころころ」という言葉を今も覚えています。人のころころは、ころころ変わるもの。

性善説とか性悪説とかいいますが、僕には「性弱説」という言葉がしっくりくる気がします。

男だろうが女だろうが、「人の心と秋の空、もとい今の空」でいいのかもしれませんがね。(^^)



2022年7月8日、女性活躍推進法が改正・施行されました。7月から従業員が301人以上の企業を対象に、男女の賃金格差を開示するよう義務づけられました。

男女平等はあるべき姿とはいえ、この男女格差を無くすという施策は差し迫った問題の為でもあります。

新型コロナウイルス禍で出産を取り巻く状況がまだ厳しい中、欧米では低迷していた出生率が、先進国の8割で前年に比べて上昇していることが先月発表されました。日本や韓国の出生率は依然低迷を続けています。

世界経済フォーラムが発表した各国の男女格差を表す「ジェンダー・ギャップ指数」によると、日本の順位は146カ国中116位で、昨年に続き先進7カ国で最下位という残念なデータが報告されています。

この国別の出生率の差とジェンダー格差を示す指標を比べると相関関係があるとされているのです。

今、日本は人口が加速的に減る瀬戸際にあると言われてしていますが、その解決策の一つが男女平等なのです。



ニーチェの言葉に、「樹木にとって最も大切なものは何かと問うたら、それは果実だと

誰もが答えるだろう。しかし実際には種なのだ」とあります。

ずいぶん遠まわりに見えますが、政府のジェンダー格差解消の施策も、ニーチェの言う「種」なのでしょうね。

皆さんの会社においても、会社の将来を見据えた様々な「種まき」を考えていらっしゃると思います。

僕がSEをしていた会社員時代、突如（僕にとっては）ソフトウェアに対してもハードウェア同様、サポート料を別途請求することになりました。理解を得られず一定数のお客様が離れることになりましたが、その後、その

サポート料が大きな収益の柱となり、会社は成長し上場を果たしました。他社も追随し、今や業界標準ともいえるソフト（システム）に対するサポート契約ですが、当時は画期的なこと。斬新な「種まき」でした。

当初は半信半疑だった僕たち社員も、後に経営者を称賛・尊敬。まさに「ころころころ」です。(^^)



甲子園の高校野球をテレビで見ていると、ピンチの場面でもあえて選手たちが笑いあうような場面があります。

昔であれば、ピンチの場面なら「集中しろ！踏ん張れ！」とかなんとか、必死の形相で

投手に声が飛んでいたと思うのですが、時代は変わりました。

「男は度胸、女は愛嬌」という、ことわざがあります。そりゃ優しくころころ笑う女性は素敵です。

でもピンチで笑う甲子園の選手たちのように、男だって愛嬌がある方がいいに決まっています！

この世の全ては変わるもの。だからこそ時代に沿った法律や会社の就業規則が必要になるのです。

この先、ことわざも少しずつ変わっていくんだろうなあ、なんて思っています。(^^)

